1. 僕の言う事は何でも聞くの。

……あ、え、ええっと……もしもし。
ん……僕。咲雪だよ。あー、うん、久しぶり。
う、うるさいな。こういうの慣れてないんだよ……。
電話ってさ、変な感じするじゃん。なんか、こう、顔が見えないから……。
いやお兄さんとはさ、ドア越しに会話してたけど……それとは違うっていうか。
……あーそうですよ、コミュ障ですコミュ障！
いちいちやかましいんだよ……。
はあッ。うっざ。むっかつくなぁ相変わらず。
今のお兄さんの表情、当ててやろうか。きっしょい、きっもいにやけ面。
……当たりでしょ？
あ？　なに驚いてんの。分かるよそんなの。
だって、僕だよ？　……、……なに嬉しそうにしてんだよきもいな。
え？　用？
いや、別に……。ほら、暇なんだろうなあって思ってさ。
……それも当たりでしょ？
土日はド暇のド変態お兄さんには、野暮用すら存在しない事くらい分かってるさ。
だって、……友達いないもんね（笑）
しかもさ、月曜休みで三連休だよ？　初日すらお出かけしないの？　ねえ？
……はあ？　同じじゃないよ同じじゃ！　一緒にすんじゃねえよ馬鹿。
知らなかった？　これでも僕、すっごい忙しいんだぞ。
いや学校じゃないよ。そんなくだらないところ行ってる余裕ないの。
……あああッ？　何が年中夏休みだよ。喧嘩売ってんの？
はっ倒すよ？　馬乗りになるよ？
身動きできないお兄さんを好き放題するよ？　いいの？
はしゃぐなきもい！　きもいきもいきもいいいッ！
男に馬乗りされて喜ぶ異常者、世界中どこ探したってあんただけだ！
あーもう。あれから少しは成長したかと思ったけど、ほんっと相変わらずだね。

僕は今ね、猛勉強中なわけですよ。
ふっふっふ。何の勉強かって？　聞きたい？　聞きたそうだね？
どうしよっかなぁ。教えてあげようかな。
そんじゃあお兄さん、僕の下僕になって？　そしたら教えたげる。
下僕は下僕。僕の言う事は何でも聞くの。聞かなきゃダメなの。いい？
……即決だね。なんでそんなハツラツとした声が出るんだよ……。
仕方ないなぁ～もう。
僕には目標が二つあってね。一つめが～、その勉強の話なんだけど、
ふふふ。えっとね～……、……は。え、おい、何で先に答え言っちゃうの！？
いやまずどうして知ってるの？　え、え？　誰に聞いた？
どして僕が車の勉強してるって――、
てか知ってたなら下僕のくだり要らなくね？
なにお兄さん、ひょっとして僕のに……なりたかったの？
ひええぁ前回以上にキモゲージ振り切れてる！　鳥肌立ってきた……。
まあそれは置いといて……。誰がそんな……この事、言ってないのに。1
……愛？　誰だよそれ。愛……愛……？
ああ、黒崎愛？　愛お姉さんか。
はあッ……あのひとおどおどしてるくせに、口だけは達者なんだなぁ……。
地味だしぼっちそうな奴だけど、お兄さんとも関わりあったんだ。ふうん。
まあ、いいや。そういうわけだから、うん。
ねえ……感想は？
いや、その。学校行かずに車の勉強って……おかしいかな。
……そう。よかった。……え、理由？　んん、まあ、あれだよあれ。
運転手……になりたいんだ。タクシーでもバスでも、教習所の職員でも……。
とにかく、誰かを乗せたい。乗せて走りたい。それが目標だよ。
言っとくけど、本気だからね。ひとの命あずかって運転するんだから、
当然でしょ。
お兄さんみたいなさ、ちゃらんぽらんに仕事してる奴とは違うんだよっ。
……ククッ。怒った？　ねえ怒った？

いや「怒ってないよ♡」じゃねえよ。なに高い声出してんのきもい。
僕、お兄さんには負けないよ。
ゲームでも僕が強いんだ。リアルでだって負けてたまるかッ。
それが二つ目の目標！
お兄さんよりバリバリ仕事するひとになって、車を買って、
お兄さんを助手席に座らせてやるんだ。
お兄さんは僕の下僕だもんね？　言う事聞かなきゃダメだよね～？
自分で望んでそうなったんだもん。あーあ、どうなっても知～らね！　バーカ。
……で、さっそくひとつ命令を聞いてもらいたいんだけどさ。
お兄さんって、車持ってるの？　……ああそう。
じゃあ、ほら、……乗せてよ。……あ？　嘘だ絶対聞こえてただろ！
このッ……二度も言わせんなよ。……うぐぐぐぐ。
隣にッ！　乗せてよッ！
あああああうぜえうぜえうぜえ何だあんたマジで！　本当に下僕！？
もっとへりくだれ、這いつくばれ！
もっと僕に慎ましく接しろよおおおおおおおッ――

2. 色々お世話になってるし。

……もしもーし。おはよ、お兄さん。
え？　今……？　八時だけど。夜じゃないよ朝だよ。寝ぼけてんのか。
ああー、そっか。言ってなかったけど、僕、昼夜逆転生活やめたんだ。
だって、身体に悪いし。……お兄さんの生活リズムに……合わせたいし――
あッそうだ、朝ごはん食べてなかったなあ。おなかすいたなあ。
え、なに？　ごめん聞いてなかった。あーあー何も聞こえない。
ちょっとお兄さんの声、耳障りにも程があるからさ。黙ってて？
いや電話は切っちゃダメだよ。ほら、慎ましく、って言ったでしょ？
そうそう。それで良いよ。……クスッ。
大人なのに子どもの僕に命令されて恥ずかしくないの？　お、に、い、さん♡

あーはっはっは。ひーっ。つくづく思うけど面白すぎ！
お兄さんと話してると飽きないなあ。僕のおもちゃみたいだね？
む、勉強？　ちゃんとしてるよっ。
今日は六時から起きてやってたんだもん。休憩だよ、きゅ、う、け、い。
もーお、お兄さん。そんなに僕の事が心配なの？　平気だって。
こう見えても僕、頭良いんだから。……何だよぅ、その反応は。
ほ、ほんとだからな！　学校通ってた頃は平均以上だったし！？
あーと、えと、学年トップとった科目もあるし？　すごいでしょ？
僕は頭良いの。分かった？　むしろ馬鹿なのはお兄さんの方じゃん！
馬鹿って言われて喜ぶしさ、ガチで頭おかしいでしょ。……ばぁか。
ほらまた喜んだ。いちいち反応しやがって、このマゾ豚野郎……。
あーもう、何で朝っぱらから罵倒しなきゃならないのさ。
お兄さんのせいで僕、口悪くなっちゃったよ？　どうすんの？
僕、お兄さんに染められちゃったよ？　責任とってくれるかな？
……うわー、良い返事。ドン引きなんですけど。
……じゃあ僕、将来はお兄さんと暮らそうかな？
え？　だって責任とってくれるんでしょ？　嘘ついたの？　ねえ？
お兄さんさぁ……ぼくのことぉ、きらいなのぉ……？　うるうる……。
あ、はいじゃあキマリ。僕を養ってねオニーサーン。ダイシュキ～。
……クスッ。詐欺とかツツモタセに合わないようにしなよ。
前も言ったけど、僕はもっぱら男を騙すひとだったからね、
お兄さんみたいなのは真っ先にカモ認定しちゃうよ。
お人よしも程々にね～？　財産かっ攫われても知らないよ～？
まあー、僕は優しいから～？　お兄さんを本気で騙す気は一切ないよ。
どうしようもない変態野郎だけど、……色々お世話になってるし。色々……。
うん。むしろ逆かな。
お兄さんにすり寄ってくるような奴がいたら……女でも男でも容赦しない……、
……なんてね？
あっはは。冗談だよ。あー、でもね、何と言うのかなぁ。

たまに、理性とかじゃ抑えられないくらい……熱い感情が湧いてくるんだ。
たまにだよ。本当たまーに。
憎いとかムカツクとか、そんなごちゃごちゃな感情。よく分からないんだけど。
あ……お兄さんに感じた事は一度もないよ？
でも、これは直感なんだけどさ。
お兄さんを取り巻くひとを見たら、そんな感情が出てきちゃう気がするんだ。
どうしてだろう？　なーんか変な言い方だけど、……本能……なのかな？
黒崎家のDNAには、皆そんなスイッチがついてるのかもしれないね。
いやごめん、全然どうでも良い話だよ。忘れて忘れて。
とにかくお兄さんはクソザコマゾ豚だからね、変な虫がつかないように、
僕が近くで見ててあげないといけないんだよ。
……あれぇ？　どうしたのお兄さん。
僕、なんか変な事言ってる？　かな？　……そう？
うーん。無理やり生活リズム正そうとしてるから、かな。
たまに頭がぼーっとするんだよね。人間の身体って怖いなぁ。
ああでも、さすがに体調は前より良くなったよ。
やっぱり明るい時間に活動して、夜は寝なきゃダメだね……。
まあ僕、引きこもってるから昼も夜も関係ないんだけど。
んー？　もう、またそれ？　外には出ないっつってんでしょ。
もう、僕の心配ばっかりしてさ。
お兄さんほんと、自分の身の回りに気を配った方が良いよ？
クソザコお兄さんじゃ、ワンパンノックアウトされちゃうに決まってるもん。
ざーこ、ざーこ。お兄さんほんとザコ。ついでにアホ。あと変態。
ろくでなし。すっとこどっこい。マキ貝、ホラ貝、ムール貝！
……優男。
……はい黙りましょうねえ、クソザコさんは黙りましょうね。
聞く耳持ちません。
じゃあね、ばいばい。は？　知らんわ、さよーならー！

---

3. 男同士でこういうの本当アレだから！

こんばんは、お兄さん。
……あれ、何か……疲れてる？
……仕事上がり……？　だって今日、祝日じゃ……お休みじゃないの？
えっ。休日出勤……って、うぇえ、そんなのあるんだ……そっか。
えと、お、お疲れ様……。うわあ急に元気になったね！？
なんだよ、この程度で吹っ飛ぶ疲れなのかよ。心配して損した。
え？　……ぅ、僕、だから……？　……ああそう。聞いてねえよバカ……。
……うっさい。もう言わない！　言わないから！　しつっこいから！
ったく、こっちが疲れるわ！　癒し癒しって、癒しに飢えすぎだっての。
うっさいって！　しーなーい！　いーやーさーなーい！
はあッ……。うざいよぉ、お兄さんうざいよぉ。もう電話切ろうかなぁ……。
あっ。焦ってる焦ってる。切ってほしくないでしょ？　ね？　でしょ？
しっかたないなぁ～。じゃあもう少しだけお話してあげるよもう。もうもう。
もし僕がいなくなっちゃったら、お兄さん死んじゃうんじゃないの？
さみしぃっさみしぃってさ、ぶつぶつ呟きながら孤独に死んじゃいそう。
ウサギさんかよ。そのナリでウサギさんって、……ぷぷっ。
いやいや、何でもない何でもない（笑）
可愛くて良いと思うよ？　うんうん。
でも、どうかな？　僕が消えちゃったら悲しい？　泣いちゃう？
ほーん。そっかー。じゃあ、ずっといてあげるよ。
お兄さんのワガママ。……クスッ。
あー、でもさ……。
仕事ってそんなに辛いものなの？　した事ないから分かんないや。
……ふーん。大変なんだね。
生きる為って言っても、したくもない事を続けるのってしんどいだろうなぁ。
僕、思うんだけど。人生ってほんっと無意味だよね。
どんな生き方しても、ひとの一生って百年前後で終わりじゃん？

その間にどんな事をするかで幸せだとか偉いだとか、
立派だとか不誠実だとか言われるけどさ。
……結局、したい事をして生きたひとが一番勝ち組だなって。
大抵のひとは、お金の為に定年になるまで働いて、
やっと引退したところで……そこから何が出来るんだろうね。
もうしたい事も満足に出来ない年齢になっちゃうじゃん。
それがひとの一生なら、ひとって本当に大した事ない生き物だよね。
僕はそうなりたくないんだ。
だからこうして、したい事を見つけたから頑張ってるの。
まあ働いた事ない僕がなに偉そうに……って思うかもだけど。
お兄さんはどう思う？
あ、待って。たぶんね、僕はお兄さんはそれに気づいてると思ってるよ。
だってお兄さん、賢いから。馬鹿だけど賢いから。馬鹿だけど。
だから僕、お兄さんに惹かれてるのかも――うわああぁぁあッ、
ちがっ、違う！　……えっ、そ、そりゃ、お兄さん……好き……だけど、
そういうんじゃなくて！　僕の場合はそうじゃなくて！
違うって言ってんだろ！　このッ、ぅぁ、ぅぁあ。
いやぁっ……いじわる！　今日のおにいさんいじわるだ！　ばかばかばか！
うっぐぐ……鬼の首とったようにディスりやがって、このッ……。
お兄さんこそ！　僕は男だってば！　なのに何でそんなデレデレしてんの！
きっもいから！　男同士でこういうの本当アレだから！
……ぅぁああ開き直りやがって。どんどん防御力上がってんな、くそッ。
ああもうッ、じゃあこれならどうだ。
好き好き好き好きッ。お兄さん、大好きッ。愛してる、キスして！
ハグして！　僕を抱いて！
どうだ、参ったか！　……おい、真面目に聞けよクズ！
望むところだ、じゃねえよ！　少しは引き下がれよそこは！
はあーっはあーっ。……どうすんだよ、この状況。
家に親いるのにッ、とんでもない事を叫んじゃったよ僕！　どうしよう！

……はい。落ち着きます。
ふううう……。
うっわあああ……めぇちゃぁくぅちゃぁはずかしぃいい……。
もうダメだ、僕は。男としてダメだ。ひととしてダメだ。一線を越えた……。
ああ、僕……お兄さんによごされちゃった……。
……笑うな、スケベ！
え？　あ、う、うん。ごめんね、長く引き留めちゃって。
お腹空いてるもんね。うん、行ってらっしゃい。
……。
ん？　ううん、何でもないよ。いつも通り。アズユージュアル。
……いつも通りって意味だよ、バーカ！　行ってらっしゃい！

4. 変な時ばっかりかっこいいじゃん……。

……あ、ごめん。こんな夜遅くに。しかもさっき電話したばっかなのに。
その、明日も仕事だよね。うん、寝てたんだよね……ごめん。
うぅ……。あの……えっと……。
……、……怖くなっちゃって。
昨日は強がった事言っちゃったけど、本当は僕、生きる事が怖い……。
あのね、お兄さんと初めて会って、お別れしたあの日から。
何度も学校に行こうって思ったんだ。
でも、勇気が出なくて。家で勉強する事が誤魔化しになってた感じ……なの。
も、もちろん車関連の夢は嘘じゃないよ。本気で目指してるから。
でもそれを叶えるには、まず学校に行かなきゃって。
誰に後ろ指差されたって、ちゃんと卒業までしなきゃって。
思ってるのに、なのに。
お兄さんはイヤな仕事も、休日返上でも会社に通ってるけど。
僕は……ここから動けない。なんてダメな奴なんだろって、……。
お兄さんと話してると楽しくて、たくさん感情が動いてさ、

僕とこんな対等に接してくれるひと、まだいるんだって思ったよ。
僕を見捨てないでくれるひとがいる。
それなら頑張らなきゃ……勇気出さなきゃって。
でも、あはは……やっぱり僕は弱いんだ。クソザコは……僕の方だったね。
朝日が昇ったら、行かなきゃいけない……のに、ダメ。怖い……。
お兄さん……僕……僕……、……、
……ふぇ……。
ぅ、ぅぅぅ、お兄さん、……お兄さん、お兄さん……。
くそぉ……かっこいいじゃん……。変な時ばっかりかっこいいじゃん……。
ずるいなあ。世界一ずるい男だね、お兄さん……。
でも、うん……お兄さんと一緒なら僕、……頑張れるよ。
頼ってばっかりもいけない事だけど、お兄さん……、
少しだけ、ほんの少しの間だけ、僕の手を繋いでてほしいんだ……。
ん……、ありがとう。……ぁ、あ、いつもひどい事言ってごめんね……？
本心から馬鹿にしてるわけじゃないよっ。
好きだもん。愛情表現だもん。……お兄さんが大好きなんだもん。
……うぅ、こういう話の時のお兄さん、ちっともキモくならないね……。
普段からそうしろっての、馬鹿ぁ……。
……ほんとに、ありがとう。
ごめんね？　疲れてるのに、僕の相手してくれて……。
うん……おやすみ。……、おやすみ……♪

5. こんなに清々しい世界だったんだ。

もしもし……。今、大丈夫……？
ぁあ、お昼休み……か。あの、僕も、そう。
え、あ、あの……ね。うん、……そうだよ。今、学校にいるんだ……。
昨日、お兄さんに言われたから……来た。
えへ。ありがとう。

何かもう、この空気が懐かしいよ。制服なんて久々に着たし……変な感じ。
うん、まあ、ひそひそ言われてたけど、あんまり気にならなかったよ。
全部スルーしてるから。……お兄さんのおかげで、頑張れてるよ。
ん。お昼……？　ああ、うん、あるよ。
学校行くって言ったら、お母さんが急いで作ってくれた。嬉しそうだったなぁ。
え……、ふ、ふんっ。別に僕は嬉しくねーし。そんな事ねーし！
もう……今メンタルがギリギリのところなんだからな。
これ以上からかうと、プンスカしちゃうぞ。プンプン……。
あ？　いやいや、外で食べてんだよ。トイレはやだよ絶対やだ臭いし。
あれ、……もしかしてお兄さん、経験者？　便所飯の？　……あは、あはは。
よーしよし、大丈夫だよお兄さぁん……僕がついてるからねー……。
一緒に食べようね～……。
……ふふ。あははっ。
お兄さんと話してると、嫌な事も全部吹っ飛ぶみたい。
何かね、本当の自分でここにいられるって感じする。不思議だなぁ。5
正直、さっきまではびくびくしてたし、帰りたいって何度も思ったもん。
でもお兄さんの声を聴いたら、弱気も弱音もどこかに行っちゃった。
ありがと、お兄さん♪
……ああ、なんか、外で食べるご飯ってこんなに美味しいだね……。
初めて知った……のか、忘れてただけか分からないけど。
そっか……外って、こんなに清々しい世界だったんだ。
地元でこんなに気持ち良いなら、
もっともっと……爽快なスポットがたくさんあるんだろうなぁ。
お兄さんって……長野に住んでるんだよね。
あそこは、僕の地元よりずっと自然が多くて、広くて……奇麗なんでしょ。
今度は……僕が遊びに行きたいな。
車がなくても、バスとか電車とか。ひとりで行ってみたい。
そしたらお兄さん、ほら、あん時言ったでしょ。助手席、乗せてよ。
長野の色んな景色……見てみたいんだ。

……うん……♪　車についても色々教えてね？　約束だよ。
ふふっ♪　卒業したらバイトしなきゃ……貯金しながら勉強して、
たくさんたくさん頑張ろう……。もっと努力しないとだ。
ねえお兄さん。
何か……僕って、今を生きてるんだね。
今までずうっと、眠ってたのかもしれないや。
お兄さんが目を覚まさせてくれたんだよ。……感謝しきれないね、ほんと。
……あ、鴨だ。鴨が一羽飛んでる。
アレもしかしてお兄さん？　……カモだけに。ふふっ、冗談だよ。
ふうーう。ああー……もう昼休み終わっちゃうなあ。憂鬱だなぁ。
でもこの憂鬱って、楽しみがあるからこそ存在する感情だよね。
楽しいばっかりの人生歩んでるひとなんて、ひとりもいないもんね。
それに気づけたから、……憂鬱も悪くないなって思っちゃった。
少しは僕も大人になれたかな？　まだまだ分からない事だらけだね。
それじゃあ、また……電話するね。
……お兄さん。僕、……、……ううん、またね。ばいばい！

6.親戚のお姉さん

……ん？　こんな時間に……。
誰だろう？　お兄さんはまだ仕事中なのに……。
もしもし？
「あ、もしもし。私だよ」
え、誰……？
「あっご、ごめんいつもの癖で……！
私、愛。黒崎愛だよ。久しぶりだね、咲雪くん」

ああ、親戚のお姉さんか。
……なんで番号知ってんのさ。
「長野のお兄さんから聞いて……」
あーそうだっ！
愛お姉さんってば、お兄さんに僕が車の事好きだってバラした？
「へっ！？　えっぁ、ぁあ、訊かれたから……、
咲雪くんの好きなもの教えてって言われて……それで……、
ご、ごめんね……？」
ああ、まあ良いんだけど……。
……ふーん。お兄さん、そんな事聞いたんだ……。
「あはは……。お兄さんから連絡もらって、
最近、咲雪くんどうしてるのかなって、私も気になってね」
まあまあ元気だよ。
お姉さんこそ、今何してるの？
「私？　大学通ってるんだ」
へえ。なんか前より明るくなったね……？
恋人でも出来たの？
「へっ！？　そ、そそそうかな……あは、えっと、
うん、まあ、ね」

ふーん、青春謳歌してるなぁ。

「それが聞いてよー。
あのひとったら、また私に黙って深夜にポテトなんて食べてさ。
ダメだよって言ってるのにさ、全然言う事聞かなくて……」

……なんかお姉さん、お母さんみたいになってない？

「え？　うん、お弁当つくったり、お手洗いついていったり」

うわ……いやごめん、そっか。幸せそうで良かったよ、うん。

「咲雪くんはそういうひとはいないのかな？　好きなひととかさ」

えっ？　あ、えー、うーん、ど、どうだろね？　いないんじゃない？

「そうなの？　咲雪くんかわい……じゃなくて、かっこいいから！
彼女さんとか出来そうなのにね！　あはは～」

今、可愛いっつったでしょ。聞き逃さなかったよ。
あいおねーさーん……。

「あわわわわわごめん、ごめんね！　もう切るよっ。
おじさんおばさんと、
お兄さんにもよろしくね！　じゃあ、ばいばい！」

……ふー。
相変わらずおどおどしてんなぁ、お姉さん……。

……好きなひと……か……。
……、……いるよ、バカ……。